【実践記録③】

学習障害児　Ｃ君とのあゆみ　（１９９８～９９　実践記録　）

２年生のＣ君は、小学校入学前の段階で ＬＤであるという診断を受けていた。Ｃ君は、「読み書き障害」というＬＤ中でも典型的な障害を持っていた。一般的な生活面や学習では特に能力的な遅れは見られないのに、文字の習得能力だけが、極端に落ち込んでいたのである。
以下、Ｃ君がひらがなを習得するまでの1年間の学習指導の記録である

Ｃ君との1年間の歩み
＝ひらがな習得を目標に＝

①Ｃ君のひらがな習得状況　②積み木並べは有効な手だて
③苦手な文字を書いて覚える　④パソコンのゲームからヒント　3択方式
⑤「マッチング」も有効な学習方法　⑥五十音表ソフトで遊ぶ
⑦専門機関の検査も絶対ではない　⑧わずかな違いで混乱してしまう
⑨視覚情報が混乱する　⑩視写を取り入れる
⑪苦手な「を」の字を視写でクリア　⑫京大の先生の所見
⑬初めての置手紙　⑭視写の速度が上がる
⑮視写絶好調　⑯文字を表現の道具として使えてきたかな……
⑰より速く　⑱漢字の指導法　⑲聴写を試みる
⑳「大きなかぶ」6ﾍﾟｰｼﾞを一気に書き上げた

6/9 ①	Ｃ児との学習開始。とりあえず、様子を見ることにする。 ランダムに並べた五十音表で読める児を印をつけながら読ませる。一応 25 絵カード（表は絵、裏は文字）も用意した 2/3 ぐらいは、字だけ見て言える。当面は読むことにしぼって指導してみることにする。
6/ 11	まだ覚えられていない文字を含んだ絵カードを使って読む練習をしたり、カルタ遊び風にやってみたりする。絵の部分を折って、文字だけのカードにしてもパッととれるので「どこでわかった？」と尋ねると、文字の数や一部知っている字から類推しているとのことだった。
6/ 13 ②	今日はいろは積み木で知っている字のコマをならべて言葉作り。その様子を見ながら覚えられている字をチェックすると 36 字、自分から見つけられる。 ◎並べて作った言葉 「あめ」「への（へのもへじ）」「たいく」「そら」「れもん」「ねこ」「りん（りん）」「まさはろ（父親の名「る」と間違える。）「みよこ」 ・残ったコマの中で読めた字 「て、す、に、け、ぬ、へ、お、る、せ」 ・読めなかった字 「し、す、た、つ、な、む、は、ふ、る、や」

	絵カード（表は絵、裏は文字）を読む練習も少し。読めたカードにはシールを貼る。 ★積み木並べはかなり有効な学習の手立てになりそうな手応え。
6/16	今日は、読み間違えてしまういくつかの字にしぼって練習。 **「は」と「ほ、た」**が特に混同しやすいようなので、その字のカード遊びをしたり、黒板に字を書いて形の違いを較べたりする。しかし、1時間やってもまたあいまい。
6/19 ③	絵カードでおさらい。文字パズルゲームを10分ぐらいやったあと、前時苦手にしていた「つ」「わ」の文字をプリントに書いて覚える勉強。「あ、思い出した」などといいながら書く。 ・今まで読むことにしぼって学習してきたが、**苦手な文字については書きながら覚えるという手立ても有効だと感じる。**
6/23 ④	学級にパソコンを設置したので、ひらがな学習のソフトを使ってやってみる。いくつかの文字カードから正しい字を選んで言葉を完成させるというゲーム。これはほぼ完璧にできる。 そのあと、苦手の「や」「は」をプリントに書いて覚える。しかし、最後にチェックテストをしてみるとやはり読めない。単純に書く作業だけでは記憶する意識も弱いようだ。 まだ読めない字「す、た、つ、な、は、む、や、わ、を、め、ぬ（めとぬを混同）」 **・いくつかの字から正しい字を選ぶというトレーニングはかなりうまく行きそうなので次回からその方法を取り入れてみようと思う。**
6/27 ⑤	間違えやすい字の文字カード（例えばは　ほ　た）を3～4枚並べて「ほたるの「ほ」はどれ？」と選ばせる学習。これだと形の細かな違いを見分ける練習にもなるし、三択ぐらいなので難しくもない。 障害児教育に造詣の深いM先生から**「マッチング」も有効な学習方法**だと教えてもらう。 マッチング……「ほ　た　る」と並べて、その横に同じようにカードを並べさせる。
6/30 ⑥	1時間パソコンで遊ぶ。五十音表の画面で、文字を選択するとその音声がスピーカーから聞こえるというソフト。言葉を作ったり、でたらめに並べた文字を音にださせたりして1時間夢中になってやっている。 最後に「まだわからん字、押してみ」というと「は、わ、な」ぐらいで後はわかると言う。 「今までやってきたいろんな勉強でどれが一番わかりやすかった？」と聞くと「今日のパソコン」と答える。
7/3 ⑦	「は、わ、な、た」を使った文字並べをいろいろやりながら文字認識の定着を図る。 「わ」と「ね」、「は」と「ほ」の違いがやっと確実に認識できるようになる。
7/4 ⑧	今日も、覚えにくい字に絞って練習。後半、「や、わ」の二つを繰り返し練習し、入れ替えても読めるようにした後、もう一字のカードをはさんで「や　ま　わ」と並べるとやはり混乱してしまう。
7/7	今まで難しがっていた「わ」が間違えずに読めるようになる。
	母　検査の結果です。 **・手や足の利き手足は右なのに、目は左利きとのこと。それによって視覚に関係するものに障害が出やすい。**

⑨	例えば物を大雑把にしか捉えられない「国」という字なら、□はわかっても中の「玉」がうまく捕らえきれない。 **・目から入るいろいろな情報のどの部分に焦点をしぼるか、しぼったらいいのか分からない。情報処理に戸惑う。** 「両側統合障害に近い、またはそれ自体であるように思う」とのことでした。
7/14	もう少しで五十音がマスターできるというところまでくる。
	母　大阪でも、読める字がすごく増えたと驚いておられました。通級の成果がやはり大きいです。あせらず少しずつがんばりたいです。でも、家ではなかなか学校のようには読んでくれないのですが……。
10/1	9月いっぱいは、運動会練習のため通級指導はなし　久しぶりに学習を再開して、1学期には読めていなかった字が読めていたり、日記の文章がしっかり書けているのを見て家庭での努力を思う。 2学期は、字を書きながら覚えていく学習を重視して取り組むことにする。 漢字を見せたら、けっこう読めそうなので、漢字も少しずつ読む練習をしていくことにする。
	母　地区の運動会で徒走と障害走に出場しました。玉じゃくしにボールを入れて走るのも落とさず行けてほっとしました。バランスがあまり良くないこの子にとっては少しずつでも進歩です。
10/8 ⑩	最初、ひらがな積み木のパズルを楽しんだあと、「なぞなぞあそび」という短い話を読んでは書き写すという練習をする。「を」「は」ぐらいが困った字であとは、自力で読める。 **★視写が有効な学習になりそうなので、今後視写を中心に進めることにする。**
10	今日も「なぞなぞあそび」の視写。「を」がかなりしっかり読めるようになる。
/13	母　本人はひらがなより漢字を書くほうが好きなんだそうです。漢字もカタカナも少しずつ覚えていってほしいです。本日の秋祭りの感想文は自分で考え、たくさんの文が書けて私もうれしいです。
10/17 ⑪	ひらがなの中で一番苦手な「を」の学習。 **「ほん（を）よむ」「ぱん（を）たべる」などの短文を作って読んだり書いたりしたあと、「くじらぐも」の視写を少しやる。その中に出てくる「を」は抵抗なく読めていたので学習の成果があったかなと思う。** 残り 10 分ほどで、漢字の「一～十」「火、川、虫、森、林」などのカードを読んだりかるたとりをしたりする。 ★１時間を三つぐらいの内容に分けてやるのが疲れずにできるようだ。
	母　この視写の方法は、お手本になる文字がすぐ横にあるのでとてもわかりやすいと思います。続きはどうやら苦手らしくやる気が今ひとつなかったのでやめました。 守山での検査の結果、京大の先生からの所見です。 ・身体面について ・体が萎縮しやすい。（内側にちぢこまる、硬直する） 何かをしようとするとき、筋肉を硬直させることで情報を伝達しようとする。（鉛筆をもつ時おさえすぎたり、逆に線が弱かったり……） ・自分の中である程度のイメージは持っているのだが、実際の場面では考えていたことが思う通りに運ばなかったり、思いとはまったく違う結果になってしまったり、また大失敗したりという現象が起こってしまう。例えば、 運動遊び（遊具のサーキット）をしたとき、それに必要と思われる物の用意（と

	び箱や平均台、はしごなど）はできるのだが、実際行動してみると、使いにくかったり不安定なバルーンをもってきて、その上に乗ろうとして 失敗したり……という誤算がある。結論としては・何回も何回も経験することで自分のものにしていく。・小麦粘土などの柔らかいものに直接指で字を書く（指から直接的に刺激を受けるようにする。） ・自分の中でイメージが出来上がるまで繰り返し友達のしていることを見たり、体験したり、自分の体で覚えていこうとすることが大切になってくる。▶
10 /22	「くじらぐも」の視写。ひらがな学習も単語単位より、文章単位でやるほうが、読めない字も類推しやすく習得しやすいようだ。 　漢字の学習も入れていくことにして、前半をひらがな、後半を漢字の学習という形でやることにする。
10 /27	今日も「くじらぐも」の視写をメインに取り組む。 漢字の絵本（字のなりたちを絵で説明した本）を読み聞かせし、その後、出てきた漢字をおさらいで読む。
10 /29	今日も視写の続き。「も」と「ら」の書き順が違うので教えるがやはり間違える。しつこく言うのはやめる。 　漢字は「男」「女」二字を 10 分程度練習。いやがらずに取り組んでいるので、しばらくこんな形で続けることにする。
	母　漢字も何回か繰り返すうち分かってくるものもあり、本人にはひらがなよりむしろ入りやすいようです。
11 /7	「くじらぐも」の視写完了。出てくるひらがなの中では「ほ」と「よ」がちょっと読めなかった以外は全部しっかり読みながら書ける。
	母　大阪での検査結果を教えていただきました。守山のセンターでしていただいたものと同じ検査らしいですが、今回は言語性と動作性の記録が反対の結果で出ているようです。また、8 歳としては能力的に他の子は同じだが、 周囲からの情報が入りにくく理解するのに時間がかかったりするということでした。一般的にＬＤの子は言語性より動作性にプラス面が多いということです。一般的な知識がやや低いのは、これからの働きかけや説明などによって育てていくことができるということでした。
11/ 10 ⑫	視写の学習、予定通り調子よく進む。
	母　11 日の火曜日に、家が留守でしたので、 **Ｃが初めて置手紙をしていきました。親としてはもう感慨無量の事件でありました。字のまちがいはありますが、十分理解できますし、本当にうれしかったです。** 　先生方に根気良くご指導いただいた賜物です。これだけの文を書くというかいしょうがでてきたように思います。
11/ 14 ⑬	「おむすびころりん」の視写。文字に対する抵抗が以前に比べてずいぶん少なくなり、2 時間であっというまに書き上げてしまう。
11/ 17	「動物の赤ちゃん」の視写に入る。書き写す速度がだんだん速くなる。文字としては丁寧さに欠けるが、今は量をこなすことを目標に置く。
11/ 26	今日から視写と合わせて、漢字の練習も始める。練習用プリントを綴じて冊子にしたものを作る。
	母　漢字ノート、嫌いでもなさそうで、がんばれると思います。書き順も今までは一筆書きだったのが、きちんと離して書けて来ています。視写も、お話的な内容が好きなようです。

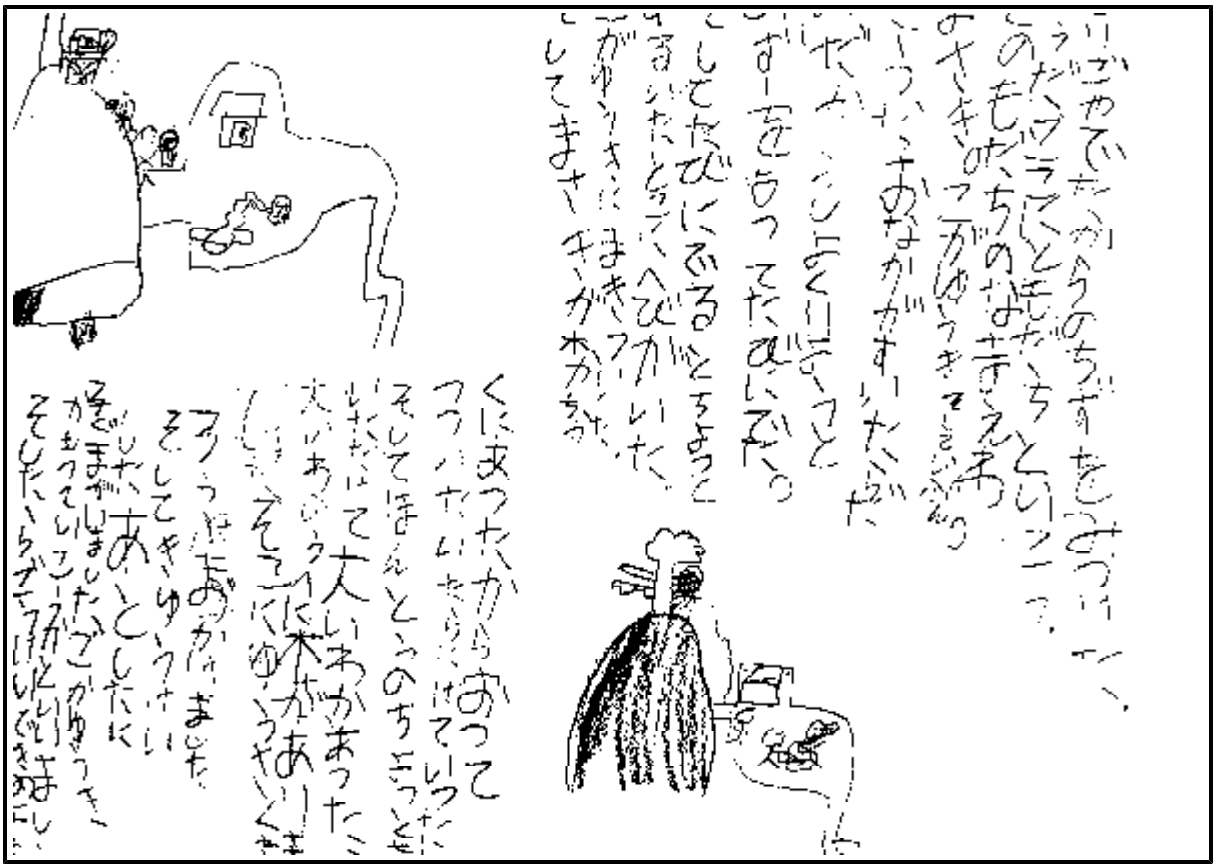
11/28	視写のスピードがずいぶん速くなり、2字間予定の「とりとなかよし」を1時間、それも休憩なしに書き上げてしまう。
12/1	今日も絶好調。「どうぞのいす」を休みもなしに一気に書き上げてしまう。視写は、「やった！」という勉強の実感が持てるのかも知れない。
⑭	母　一つひとつ仕上げていくのがきっとうれしいと思います。家では、「もうこれ終わった」「これも全部やった」と自慢気です。量をこなしていくうち覚えることと使うことが結びついてきつつあると思っています。何か、以前ほど「書くこと」に抵抗がなくなりつつあるように感じます。
12/3	「たぬきの糸車」の視写に入る。2学期中に仕上げる予定。 交流学級の国語の時間に創作話を書いたものを見せてもらう。自分の思いを書き綴ることに自信をもってきている様子が感じられる。
⑮	母　国語の時間に自分なりにお話を作って書く勉強をしたのですが、誤字等たくさんありますが、「書きたい」という気持ちが出てきたら、結構書けるんだなと知ったしだいです。
12/2	「たぬきの糸車」視写と漢字練習。視写しながら音読してるい様子を見ると、まだ「や、は」あたりが不確実。少し取り立て指導も入れる必要があると感じる。
	母　家でもよく書き置きをするようになりました。「こがゆうちゃんら（ち）えお（あ）そびに行きます。」 と書いてあり、何回か言ってやりましたがだめでした。「ち」と「ら」、「あ」と「お」が確かに似ていてよく間違えます。「は」「す」もすく忘れてしまいます。何となくCの頭の中の回路が混乱している理由がわかるような気がします。
	1/8 漢字の練習も休み中はほとんどできずあっという間の新学期のはじまりでした。家に貼ってある「わ　た　す　な」の文字のうち、「わからへんのは『は』だけやな」 と一人で言っていました。やはり書く作業を毎日しないと忘れることも多いようです。
1/14	「どうぞのいす」二回目の視写。 今回は少し速く書く、速く読むことを課題にする。
⑯	母　「さぎちょう」の宿があたり、近所の子どもたちと竹に飾るため折り紙をしたのですが、やはり指先の作業は少し時間がかかり、却ってCには効果のある作業だとわかったような気がします。
1/16 ⑰	漢字カードを三枚ずつ机の上において、その中から私が言う漢字を選ぶ練習をやる。半数ぐらいは識別できるようになっている。 音読も時間を計ってやると気合が入るようで、2回目はぐんと速くなる。すらすら読むことを目標にしながら、読みのあいまいな字を克服させようと思う。
	母　大阪での話。 漢字はやはり一年生の始まるところからゆっくり確実に覚えていくほうが良い。一度に多く取り入れるより、10個なら10個にスポットをあて、しっかり自分のものにしていったほうが良いのではということです。漢字カードも2枚のうちから本人に取らせて、完全に読めるようになるまで繰り返すという方法をとった方が良いとのことでした。 また、大きく書いた漢字の上に白紙を置いて写った文字をなでるとか、点で書かれた上をゆっくりなでるというのも一つの方法だとお聞きしました。

2/ 9	流感による学級閉鎖で久しぶりの学習。 漢字ノートは今まで書いた字は全部読めた。
2/ 12	新しい教材が準備できず、「おむすびころりん」の視写をもう一度やる。音読を聞いていると、「お」「こ」あたりで一瞬とまどうようだが自力で読めてはいる。「は」と「わ」の区別もできている。
2/ 13	**今日は聴写を試みる。確実に自分のものにしている字とあいまいな字がはっきりするので。**「む→は」「る→ぬ」「お→あ」「さ→か」など。誤字になる字を洗い出して集中的に練習することにする。
⑱	母　本当に書いてみるとまだしんどいところが多々あります。「さ、か、う」は自分の名前にあるだけによけい覚えにくいのか、うまく入って行かないようです。
2/ 20	もう一度五十音のチェック。前回ミスが多かったのでまだあいまいな字が多いのかと思ったが、今回は全部書けたのでほっとする。 視写に加えて短作文（一文ぐらい）も効果がありそうなので取り入れることにする。 漢字については、練習した字はきっちり覚えられている。
2/ 27	「大きなかぶ」の視写を意欲的にする。私がゆっくり音読するリズムに合わせて、調子よく書いていく。まちがえやすい「お」と「あ」が教材文に繰り返し出てくるのでちょうどよい練習になる。
	母　家でも音読が少しずつ読めるというか、まだまだ棒読みですが、成長した読みができています。
3/ 2 ⑲	ポケモンのシールを買ってもらったといってノートに貼ってある。ほとんど名前は覚えているという。見ていて、ポケモンのシールでカタカナの学習もできそうだなと思う。 **「大きなかぶ」6ページ分も一気に書き上げてしまう。** 繰り返しの文なので長文でも苦にならなかったのだろう。
	母　「だいぶ書けるようになったのですね」と大阪でおっしゃっていました。手に緊張がなく、かなりリラックスしてかけてきているようです。 カタカナの覚え方も、楽しみながら「ポケモン」の力を借りてがんばれたらなあと思います。 この前、縄跳びで後ろとびが 32 回できたそうです。すごいと思います。今までのＣを知っているだけに、着実に一歩ずつ踏みしめているよう に感じられうれしくおもいます。

こんなに書く力が伸びたＣくん

Ｃ君の指導は、３年生も引き続き週３時間個別指導の時間を設定し、カタカナ・漢字の学習へと進んでいった。

その３年の３学期末のある日のこと。Ｃ君の担任の先生が、「ちょっと、これ見たって。Ｃ君が全部自分で書いたんよ。」
と言って、次のような作品を見せてくださった。



Ｂ４版の紙３枚使って、びっしりと書き込まれた絵入り物語だった。
内容の一部を紹介しよう。

　あるひ　とりごやでたからのちずをみつけた。そうだ　ここにともだちといこう。そのともだちのなまえわ　まさき。ゆうきそしてじぶん。そうだ　おなかがすいたらだめだから　しよくりようとみずをもってたびにでた。
　そして　たびにでると　ちょっとあるいたとこにへびがいた。ゆうきにまきついた。そしてまさきが木か（が）ちかくにあつたからおってつついたいたらにげていった。そしてほんとうのちょっとあるいだけで大いわかあった。大いわのうへに木がありました。そこにろうぷおかけました。そしてきゅうけいしたあとしたに子ぐまがいました。ゆうきがもつていこううかといいました。……

これには、本当にびっくりさせられた。２年生の初め、１時間かけて１～２個のひらがなを教えても、時間の終わりに「この字は、何て読む？」とおさらいしてみると、「……？」と首をひねっていたＣ君。そのＣ君が゛多少の文字の誤りはあるにしても、こんなに自由に表現できる力を持てるようになるとは……。
こうしたＣ君の成長の元をたどれば、保護者の前向きな姿勢がある。
ＬＤ障害ということをきちんと受け止め、世間の偏見にとらわれずＣ君の通級指導を求めてこられた。その結果、２年間でこれだけの成果をあげることができたのだ。
もちろん、週３時間の指導だけでこんなに力が伸びるはずもない。陰には家でのお母さんのねばり強いサポートがあった。けれども、学校と家庭が連携することでここまでこれたのだと思う。